

近世仏塔の意匠と構造

——近畿地方の遺構——

濱 島 正 士

1. 遺構の建立年代と工匠

3. 各部の様式手法

2. 柱間寸法と柱長さ

4. 内部の状況と組上げ構造

論文要旨

近畿地方には、近世に建立された仏塔が五重塔・三重塔・多宝塔あわせて46基残されている。本論は、それら遺構の現地調査の結果にもとづき、規模・形式・構造・意匠などについて、地域性を考慮しながら近世仏塔の特色を明らかにしようとするものである。

1. 遺構の建立年代と工匠

遺構の分布状況、建立年代、建立にあたった工匠（大工・彫物師・鋲物師）についての考察

2. 柱間寸法と柱長さ

柱間寸法と枝割の関係、柱間寸法の遞減（三重塔）、初重軸部の縦横の比例関係についての考察

3. 各部の様式手法

軸部・組物・軒・柱間装置など細部の様式手法についての考察

4. 内部の構成と組上げ構法

初重内部の柱・来迎壁・仏壇・天井などの構成、三重塔の組上げ構法についての考察

近世仏塔については、全国を東北・関東、中部、近畿、中国・四国・九州の4地区に分け、地区ごとに調査・研究を行ってきたもので、本論はその第4編にあたり、これで一応完了する。